

(仮称) 南部コラボセンターにおける図書館機能について

(提 言)

平成 29 年 (2017 年) 4 月

豊中市立図書館協議会

豊中市立図書館協議会委員

舟岡 直子	小学校長会
大野 俊介	中学校長会
荻原 まゆみ	こども園長会
天瀬 恵子	豊中図書館の未来を考える会
松田 美和子	豊中子ども文庫連絡会
◎岸本 岳文	学識経験者
○渥美 公秀	学識経験者
瀬戸口 誠	学識経験者
樋口 名子	市民公募

◎委員長 ○委員長職務代行

目 次

1. はじめに	1
2. (仮称) 南部コラボセンター基本構想について	2
3. 南部地域の図書館の現状について	
● 子育て・子育て支援	4
● 学習支援	4
● 学校連携	4
● 就労支援	5
● それ以外の機能	5
4. (仮称) 南部コラボセンターにおける図書館機能について	
① 子育て・子育て支援機能	6
② 学習支援機能	6
③ 学校連携機能	7
④ 就労支援機能	7
⑤ それ以外の機能	8
⑥ ハード面での配慮すべき点	8
5. おわりに	9

1. はじめに

豊中市におけるこれからの図書館の配置計画と各図書館のありようについて、図書館協議会では『豊中市立図書館の今後の戦略的な施設配置について ― 特色ある図書館づくりや地域の知の拠点としての施設のありようなどをふまえて』として平成 26 年 3 月に答申を行いました。この時点ではまだ構想段階にあった（仮称）南部コラボセンター（以下センターという）が、その後図書館を核とした複合施設として具体的に計画が進められることになったことを受けて、平成 28 年 7 月に岡町図書館長よりセンターを中心とした豊中市南部地域における図書館機能について図書館協議会に諮問がありました。

図書館協議会は先の答申において、センターに地域の知の拠点としての図書館が入ること、南部地域のまちづくりに図書館が積極的な役割を果たすことができるはずであるとし、そのためには平成 20 年に開館した複合公共施設「千里文化センター コラボ」で図書館と市民が協働して事業に取り組んできた経験を南部地域の特性を活かしたかたちで展開していくことが求められるとしています。

このことを前提として本図書館協議会では、南部地域の特性とそれに対応する図書館機能に焦点を絞って検討を重ねてきました。もとより地域には図書館に対するさまざまなニーズや期待が存在しています。図書館の基本的な機能は資料・情報の提供であり、それを支えるのが資料・情報の収集と組織化という働きです。地域で行われている多様な活動は、地域の資料・情報を丹念に集めて整理し発信していくという図書館の働きと結びつくことによって、より深みを増していくはずで、これから計画がさらに具体化していくなかで、図書館には図書館の働きが地域の活性化に役立つものであるということを積極的に伝えていくことと、そのうえで地域の声に丁寧に耳を傾ける姿勢と、それを事業につなげていく発想や工夫が必要となってきます。

ここに取り上げられたことが出発点となって、図書館員が地域に足を運び地域の人たちと語り合うなかで新たな図書館機能が創り出されることを、また地域の人たちが図書館員と図書館について話すことを通して自分にとっての図書館、自分の住む町にとっての図書館を再発見してもらうことを願って、図書館協議会の提言とします。

2. (仮称)南部コラボセンター基本構想(平成26年3月作成)について

(「(仮称)南部コラボセンター基本構想」パンフレットより抜粋)

豊中市の南部地域は、歴史のあるまちで活気にあふれています。とりわけ昭和に入ってから、商工業を中心に発展し、人口も急増しました。駅前に集積する商業は賑わいを生み、ものづくり企業の集積はまちに豊かさをもたらしました。また、由緒ある神社や大阪音楽大学が立地するなど歴史的・文化的な社会資源が豊富で、祭りなどを通じたご近所づきあいは下町らしい人情味のある豊かな風土を生み出しています。

一方で、少子高齢化が進み、まちの活気に陰りが見えはじめています。また、長期の景気低迷などによる社会経済環境の変化は、地域経済や住民生活、更には、次世代を担う子どもたちの健やかな育ちにも影響を及ぼすことが懸念されています。

この基本構想は、南部地域の学校や施設で構成する整備検討会議や、市民会議、ラウンドテーブルなどでの意見を集約し、求められる施設とその機能、連携のあり方、取り組むべき事業のイメージをまとめたものです。今後はこの基本構想を基礎として、(仮称)南部コラボセンター建設に向けて皆様のご意見をお聴きしながら調査検討を進め、さらに具体化させていきます。

(仮称)南部コラボセンター実現に向けた5つの基本方針

① 地域へのほこりと南部地域のブランドを市民が主体となって創造する

地域へのほこりと地域ブランドを市民が主体となって創造する取り組みを喚起し、支援し、南部地域内外へ発信します。

② 生活面の課題を改善し、「いきいきと」「充実した」暮らしと福祉を実現する

南部地域にかかる教育や福祉など関連する施策やネットワークの連携・整備・充実に図り、住民への直接的な支援と、自律した生活に向けた支援を行い、地域住民の「いきいきと」「充実した」暮らしと福祉の実現をめざします。

③ 地域を担う次世代を地域全体で育む

(仮称)南部コラボセンターは、教育、子育て支援の拠点として、地域を担う次世代を南部地域全体で育むしくみづくりに取り組みます。

④ 老朽化し、散在する公共施設やサービスを取りまとめ、市民サービスの拠点を形成する

市有施設の有効活用の観点も踏まえて、複合的な機能を備えた施設を整備し、ワンストップ型の市民サービスの向上を図ります。また、市民、事業者、NPO、市との協働によるまちづくりに向けたネットワークの拠点施設としての機能の充実を進めます。

⑤ 地域の教育環境の再編と連動、連携して地域ぐるみの教育に取り組む

～(仮称)南部コラボセンターの機能を補うサテライト機能の設置～

南部地域の活性化に向けた各種取り組みの拠点となる複合施設の整備と合わせて、小中学校などの教育施設や地域のコミュニティの拠点となっている公共施設などにサテライト機能を設置することで、ネットワークを形成し、地域ぐるみで教育環境の向上を進めます。

【参考】 以下の内容は南部地域連携センター主催の市民説明会資料より抜粋
(平成 29 年 2 月 14 日、18 日開催)

施設・機能整備の基本的な考え方

- ① **【既存】** 老朽化し、散在する公共施設の複合化・多機能化
 - 公民館、図書館、老人福祉センター、出張所、労働会館、保健センター
- ② **【新規】** 地域課題の解決・地域ブランド創造に資するもの
 - 子育てしやすい環境づくり
 - ⇒ 子育て支援拠点、学力向上 地域学校連携拠点、キャリア教育
 - 安定した就労への環境づくり ⇒ 就労・生活困窮者支援拠点 (キャリアセンター)
 - 地域課題の解決や地域ブランド創造につながる市民活動推進の環境づくり
 - ⇒ 市民活動・NPO活動支援拠点

その他

- ① 地域ブランド創造・多文化共生・学力向上地域学校連携拠点・キャリア形成拠点については、会議室等を活用した事業 (プログラム) 展開を想定
- ② 福祉事務所については、サテライトでの配置を想定
- ③ サテライトについては、本館との機能連携を図り、本館で実施する事業のサテライト展開や、本館の設置理念を実現する「現場 (市民活動拠点・ものづくり工房・発表練習場等)」としての位置づけを想定

- (仮称) 南部コラボセンターは、5 つの基本方針のもと、南部地域活性化の拠点として機能する施設です。
- 本構想の特徴は、地域全体の公共施設の再編と教育環境の再編を並行して行い、地域のきめ細かなネットワークと地域外や多様な事業者ともつながる大きなネットワーク、すなわち、「(仮称) 南部コラボセンターネットワーク」を形成し、拠点施設として (仮称) 南部コラボセンターを位置づけていることにあります。
- めざしているのは、広域かつ多様な歴史・文化を有する地域が、多様なしくみや事業によってつながり、南部地域が元気になるとともに、地域を担う子どもたちが夢や希望を持てるようになることです。

そこで、基本構想を広く南部地域の市民で共有し、具体化していくためのキャッチフレーズとなる (仮称) 南部コラボセンタービジョンは、「**子どもに夢を！地域に輝きを！南部地域がまとまる、つながる、元気になる。**」とします。

3. 南部地域の図書館（庄内図書館・高川図書館・庄内幸町図書館）の現状について

図書館がセンターの中核としての役割を果たし、地域の課題解決に役立つ機能を発揮するためには、基本的なサービスとして、「子育て・子育て支援」、「学習支援」、「学校連携」、「就労支援」を重点に活動を展開していくことが必要である。

これらのサービスを考えるにあたり、はじめに、この4つの機能ごとに現状を確認しておきたい。

● 子育て・子育て支援

図書館のほか、子育て支援センターや子育てサロン、保健センター等で子ども文庫、おはなしボランティア等市民や関連部局との連携を深めながら様々な事業を展開している。特に4か月児健診時に行う「ブックスタート事業 えほんはじめまして」は、成人も含めて図書館利用が低調な南部地域において、保護者と赤ちゃんに出会える貴重な機会であり、居宅の親子への子育て支援や、図書館の新規利用へつながる事業として、継続して実施している。

高川図書館では南部地域連携センターおよび公民館とともに、ベビーヨガなどを実施し、保護者が図書館に来館するきっかけづくりとするとともに、近隣の子育て支援センターなどとの連携も行っている。

● 学習支援

南部の高川図書館内にあるスペース「ぶらりあん」、庄内図書館の子ども室や協働事業スペースの開放を中心に自習を認め、子どもたちの学習の場の確保を公民館など他の施設とともに行っている。また高川図書館では平成26年度より庄内公民館と連携して学習サポートを夏休みに行い、大学生ボランティアによって近隣の小学生の夏休みの宿題の支援を行っている。庄内図書館でも、しょうないREKの事業の一環として同様の事業、「夏休み宿題おたすけプログラム」に取り組んでいる。

● 学校連携

各小中学校に学校司書が配置され、公共図書館と学校図書館の間で資料面はもちろん、研修の場をもつなど、連携を深めている。庄内幸町図書館は学校図書館支援ライブラリーによって読書や調べ学習の支援、さらには教員向け資料についても収集、貸出を行ってきた。

また、読書や調べ学習の支援以外にも子どもたちの成果物、おすすめの本の帯やポップを展示するスペースを設け展示を行っている。

● 就労支援

平成 25 年度から「暮らしの課題解決講座・図書館でビジネス」と題し講座をおこなってきた。平成 27 年度からビジネスゼミナールとして新たに産業振興課と企画段階から連携し、各分野の専門家を招いて、起業などに関する講座を開催、その際は司書が資料紹介を行っている。

庄内図書館では 3 階の協働事業スペースをしょうない R E K の実施日、火曜日以外は自習スペースとして開放しているが、子どもとともに、普段あまり来館されない 30 代～50 代の方が資格取得等の勉強に利用されている光景も見られる。

● それ以外の機能

庄内図書館では、課題解決支援サービスの一環として、多文化共生サービスを担っており、日本文化、日本語を学ぶための資料や外国文化を知る多文化共生資料コーナーを設置している。しょうない R E K として「外国人親子にむけた高校進学相談会」や岡町、千里図書館とともに外国人女性と子どものための居場所として「おやこでにほんご」を開催している。また、地域のニーズに応じて近隣の商店街で実施している庄内バルへの参加、高齢者施設へのリサイクル本の無償譲渡など、多様な事業に取り組んでいる。

以上の現状をふまえ、図書館の果たすべき 4 つの機能について、どのようにすれば多様な世代に利用され、地域の課題解決につながるか議論をすすめたい。さらには南部地域の活性化を担うセンター全体が有機的に機能するために、そのなかでセンターの一員としての図書館が担うべき役割を明らかにしていきたい。

4. (仮称)南部コラボセンターにおける図書館機能について

① 子育て・子育て支援機能

「(仮称)南部コラボセンター基本構想」において、市内の他地域と比較して生活面で課題を抱える家庭が多く存在することが報告されている。まずは図書館が暮らしに関わる各種の情報の提供や調査相談の窓口であり、図書館を利用することが日々の暮らしを豊かにすることにつながることを実感してもらえらるような活動が求められる。

図書館は、現在おはなし会などの事業を通して読書の楽しさ、大切さを感じてもらえるよう子どもたちに働きかけている。これに加えてセンター内の子育て支援の専門職と密接に関わりながら、子育て世代が居場所と思えるような場づくりや図書館機能を生かした子育てができる施設であってほしい。

幅広い年齢層が集まる図書館で、子どもと保護者に新たな交流が生まれることも予想される。子育てという点では、南部地域の人のつながりの深い土壌を生かしてこれまで図書館が行ってきた「紙芝居ボランティア」のような形で年上の子どもが乳幼児に読み聞かせを行うような異世代交流の仕組みを発展させていくこともできる。また乳幼児期からの継続的な図書館利用により大人になっても図書館を使いこなすことにつながるのではないかと。

子育て支援に関する図書館の機能を果たすためにはハード面の工夫も欠かせない。たとえば外から中の様子が見えることで施設に来館するハードルを下げることになる。小さな子どもを連れて安心して来館できるソフト・ハード両面の配慮が必要である。

② 学習支援機能

学びの基本となる学習意欲を喚起することは、図書館の働きとの関わりが深い。子どもたち一人ひとりが将来にわたり学びの展望を描けるように、学校以外の人とのつながりを通して学ぶ意欲を呼び起こす契機をつくってほしい。「(仮称)南部コラボセンター基本構想」では図書館を交流拠点機能として位置づけているが、図書館協議会としては、情報発信や学習支援の機能を備えていることから、特に子どもたちにとっては生活・学習等支援拠点機能を基本とするべきだと考える。学びを支える働きが十分に機能し、多くの子どもたちが図書館を利用してくれることが、交流拠点機能の展開にもつながっていくはずである。

図書館は、子どもたちが発達段階に応じた自分のための本にめぐり会え、行って楽しい「居場所」であると同時に、様々な発見がある学びの施設であることをその活動を通して広く周知させる必要がある。

子どもたちは、センター内の公共図書館で高校生・大学生・大人など様々な世代の人々と同じ空間に集い交わるなかで、生活と学習のつながりを実感していくのではないかと。そこから子どもたちが自ら、課題解決への糸口を見つけるなど、学ぶことの意味を自覚し将来への展望を見出すことができるような仕組みづくりが求められる。子どもたちが

学びの意味を理解し、自覚的な学習を通じて自分たちの夢を描ける、生活・学習支援拠点として機能するよう、センター内外の専門家・機関の協力を得て、子どもたちに寄り添って一人ひとりの学びを支えていけるような環境を整えてほしい。

③ 学校連携機能

豊中市では全小中学校に学校司書が配置され学校図書館を活用した教育を展開する基盤が整いつつあるが、学校図書館が充実した活動を行っていくためには資料面での公共図書館からの支援は不可欠である。この面では、全市的なシステムとして学校図書館と市立図書館の連携の仕組みがさらに整備されていくことを期待したい。

学校図書館を使つての授業は、子どもたちの主体的な学びに効果的であるが、児童や生徒がより幅広い公共図書館の蔵書に触れ、それらの資料を活用する機会ができれば、学校での学びをさらに深めることができる。そのため学校から授業の一環としてあるいはクラブ活動等で公共図書館を訪れるなど、隣接する施設ならではの取り組みが期待できる。また、学校単位での活用とは別に、学校図書館で行った調べ学習のテーマに即した本を公共図書館で展示するなど、子どもたち自身が興味を持って自然に公共図書館を利用できるような雰囲気づくりを行っていくことも有効だろう。このような学校での授業計画と連動した企画は、学校図書館と公共図書館が日常的に協力関係を築き、定期的な情報交換などの緊密な連携があつてはじめて実現できるものである。

情報に振り回されるのではなく自分にとって必要な情報は何かを考え、それを自分で考えて選び取っていく力は図書館で培われていくことが多いと思われる。これからの時代を生きていくうえで必須となる情報リテラシーを身につけていくためには、公共図書館と学校図書館とが手を組んで図書館利用教育に取り組むことが大切である。

④ 就労支援機能

図書館の就労支援では、就職・転職・ステップアップを望む人、あるいは、様々な状況に置かれながら社会とのつながりを求める人など具体的なサービス対象を想定しながら、図書館としてできることを考えるなかで、方向性も見えてくるであろう。

これらの人々にとって、図書館はまだまだ日常生活の中に位置づけられておらず、図書館においてもサービス対象として意識する必要があるのではないかと思われる。それぞれの人がそれぞれの立場で図書館を利用することのメリットを見いだすことのできる仕掛けを図書館としてどのように提供できるかが大きな課題である。

また、個人だけでなく、南部地域の事業所などに対して産業振興・就労にかかわる部局・関係機関と連携した働きかけも必要である。

図書館の基本的な役割は利用者が必要とする資料・情報を提供することである。これが、利用者のニーズに応じて、必要な情報を持っている機関や人へと利用者をつなげていくレフェラルサービスに展開していく。センター全体が有機的に機能するためには図書館がレフェラルサービス機能を中心に据えて、様々な地域の情報を収集整理し、地域の人々にフィード

バックするとともに各分野の専門家につないでいくことが必要である。

⑤ それ以外の機能

市内他地域と比較して、南部地域においては貸出人数、貸出冊数からみると、利用が低調であることから、各世代の潜在的ニーズを発掘しきれていない状況が伺える。そこで南部地域のニーズをふまえたサービスを提供することが求められる。

ひとつには、高齢化率が高い地域であることから、高齢者に図書館をいきいきと利用してもらうために、単なる「居場所」ではなく、高齢者の生活に必要な資料や情報を提供するような図書館サービスの検討をすべきである。その中には定年退職後のいわゆる「元気なシニア世代」も含まれる。会社とのつながりがなくなった人たちには地域とつながっていくための機会を用意すべきだろう。センター内の各施設と図書館の機能を活用してそうした機会づくりを行うことで地域での活動が広がる可能性がある。

さらにすべての人に対しての情報提供として、障害者サービスの機能も欠かせない。たとえば点字図書、デージー（録音図書）などの多様なメディアの資料提供、対面朗読のサービスなど、関係機関と連携しながら図書館の利用に障害のある人たちが身近に情報を得られる場としてほしい。これまで庄内図書館が行ってきた多文化共生サービスについてもセンター内や地域の各機関と連携しながら、多様な文化的背景をもった人たちがそれぞれに適したかたちで十分な情報を得られ、地域において快適な暮らしを実現できるような事業をさらに展開してほしい。

またセンターとともに南部地域の情報拠点として、サテライトが機能することで、図書館の情報収集能力や編集能力を発揮できる。第十二中学校区内にある高川図書館がセンターのサテライトに位置づけられていることから、センターとのサービス内容の連携、分担についても検討していくことが求められる。

⑥ ハード面での配慮すべき点

センター全体が有機的に機能するためには、様々な設計上での配慮が必要となる。たとえば施設内を壁ではなく低いパーテーションで仕切る、ガラス張りにする等、図書館内で行われているさまざまな活動の様子や雰囲気がわかり、気軽に来館しやすいよう促す。またサインの統一、階段や壁の配置を工夫することで、市民が施設内を気軽に移動し、目的以外のスペースにも立ち寄るきっかけとなり、複合施設としてのメリットを最大限に生かすことにつながる。さらにデザイン性のすぐれた家具などをゆったりと配置し、市民にとって居心地の良いスペースを提供することは、人と人との交流を生み出すうえでも重要な要素である。

5. おわりに

図書館には本来の業務として資料・情報提供とともに、センター内外の他機関につなぐ役割がある。例えば子育て支援、就労支援などのサービスにおいては相談窓口につなぐ、あるいは地域の人材につなぐことも重要な業務の一つとなる。センター全体の核となることをめざし、図書館が機能を生かし、責任をもって行えるような仕組み、ハードウェアをそなえるべきである。そのためには基本となる図書館の資料・情報提供機能とあわせ、他機関と連携することで、「(仮称) 南部コラボセンター基本構想」に明記されている生活・学習等支援機能、交流拠点機能としての役割を果たすことが求められる。

施設、蔵書構成、サービス内容など、ハード、ソフトの両面においてユニバーサルデザインを取り入れた図書館として、敷居が低く、初めて利用する市民でも気軽に立ち寄ることができる、立ち寄りたいたいと思う建物を実現させてほしい。そうすれば図書館への来館を通して、センター全体における多機能なサービスの入り口となるからである。

ソフト面については、図書館へ行く動機や意味につながるような仕組みを積極的に打ち出していくことが重要である。地に足の着いたサービスは、地域のニーズを把握しないと展開出来ない。地域の人の思いや期待を踏まえながらトータルでのサービスを考えていくべきである。

図書館がセンター全体の多様な機能の核となることで、様々な世代の市民が「居場所」となるようなスペースを提供することができる。そこでは施設内の様々な機能が活用でき、魅力的な本や情報、人との出会いが待っている。

最後に防災の拠点としての役割にふれておきたい。平成7年の阪神淡路大震災において、豊中市南部地域は大きな被害を受けた。災害時の避難所としての拠点機能もセンターが担う予定となっており、その際に図書館がどのような役割・機能をもつか、防災計画の中に位置づけられるよう関係課に働きかけることが必要となる。災害時の拠点となるセンターに本があることでより意味のある場所となるであろう。

南部地域にはそこに住む人たちの結びつきの深さという地域としての強みがある。市民や民間団体、関係機関と連携し、南部地域のニーズに合わせた図書館サービスを提供することによって、さまざまな情報や人との出会いの場となり、土地に根差した新しい結びつきを生み出してほしい。そのうえで、そこに住む人たちが図書館の活動に主体的に参加し、新しい図書館が自らの力を発揮できる場となるような環境づくりのための議論を、市民とともに深めていってもらいたい。

今回の提言をもとに、今後も継続して市と市民が南部地域にふさわしい図書館のあり方をともに考えていくことが必要である。そのことは今後の公共施設の再整備を考える上での参考となるだろう。図書館としての必要性を地域住民から認められてこそ、センターの図書館が活用され、その機能が発揮される。生涯にわたる市民の学びを支え、地域の課題解決に役立つ図書館が南部地域に根付き、その多様な機能によって地域が元気になり、次世代を担う子どもたちが豊かな夢や希望をもてるようになることを期待したい。